

さんSUNひろば VOL・17

北海道看護協会 第3支部

札幌第3支部主催 看護の日健康フェア

2019年5月18日土曜日、新さっぽろカテプリ1階北入口、イベントスペースにて「看護の日健康フェア」が開催されました。血圧測定、酸素飽和度、骨密度測定、保健師による健康相談がおこなわれました。会場では喫煙防止のDVD鑑賞も行い、10～80代の様々な年代の方130名ほど参加されました。アンケートからは「病院にかかる程でもないが、フェアで健康相談できると安心して生活でき、普段の生活を見直せる機会になりとっても良かった」など感想がありました。防災グッズ、ハンドタオル、ウェットティッシュなどのグッズも配布し、防災グッズは大変好評で防災に対する意識高まっていることを感じました。札幌第3支部では初めてのイベントで役員・委員の皆様準備から大変だったと思います。今後は毎年の行事と実施できれば良いと思いました。



血圧測定中



骨密度測定中

保健師による
医療相談



働き続けられる職場づくり推進委員会

気にしていますか？自分の身体 ～ボディコンディショニングについて～



2019年6月22日 新さっぽろアーキシティホテルにおいて、森田敦先生をお招きし ボディパフォーマンスの研修会を行いました。雨ふりの中約30名の参加でした。腰痛になりやすい人の特徴呼吸の大切さを学び、ストレッチどれだけ大切かを感じ、実際にやってみると悲鳴を上げるくらい体がきつい状況で先生にわかりやすく指導していただき楽しい雰囲気研修をうけました。時間があれば学んだエクササイズを行い、肩こり、腰痛予防に努めたいと思います。今回案内状の発送が遅れるなど、反省点もありましたが無事終わることができ、まずはホッとしています。

働き続けられる職場づくり推進委員長 北田つぐみ

看護師職能委員会

スタッフと管理者の両者から見た良好な組織作り

北海道日本ハムファイターズ元球団コーチの白井一幸先生



2019年7月13日ホテルエミシア札幌でおこなわれました。三連休初日にも関わらず、211名の方々の参加をいただきましてありがとうございます。白井先生が絶妙な間で、会場参加者に対して質問や選手役を振ってくださり、笑いの絶えない一体感のある講演になりました。分野は違いましたが、組織の中の自分の立ち位置や姿勢を見直す機会にもなり、今後活かせる内容も多かったのではないのでしょうか。また、内容だけでなく参加者への対応も素晴らしく、相手への配慮・話し方なども勉強になり実りの多い講演でした。

看護師職能委員長 森田 敦志

助産師職能委員会

フィジカルアセスメント ～ 新生児 ～



2019年7月20日に、読売北海道ビルACU-Yで、札幌4支部合同助産師職能研修会を行いました。午前中は、札幌医科大学の染谷真行先生に、「産科救急～一次施設に期待すること、高次施設で期待される事～」、午後は北海道大学病院 周産母子センターの長和俊先生に「CloCMiP®関連研修 新生児におけるフィジカルアセスメント～緊急を要する新生児疾患～」という内容で講義をしていただきました。

研修には、個人病院から高次施設など、さまざまな施設で働くスタッフの参加がありました。産科救急に関する研修では、助産師それぞれが活躍する場で実施しなければいけないこと、今後確認していかなければいけないことなどを具体的に学ぶことができました。新生児における研修では、アセスメント力を養うために、新生児の正常な適応過程について学ぶことができ、どちらも明日からすぐに実践にいかしていくことができるような研修となりました。

今後も助産師のスキルアップのために、学びある研修を企画していきたいと思っています。たくさんのご参加ありがとうございました。

助産師職能委員長 伊藤加奈美

教育委員会 看護研究発表会



2019年7月20日に札幌第3支部教育委員主催の看護研究発表会が開催されました。12演題の発表がありましたが、専門性の高い研究が多く見られ学びの機会となりました。一方日常よく遭遇する事例についての研究は、参加者の皆さんが自施設でのケアに大いに役立つ内容だったと感じます。年に1度、他施設との交流の場となりお互い良い刺激となりました。日々の業務でお忙しい中、研究に取り組みされた皆様、また会場にお集まりの皆様お疲れ様でした。

広報委員 白浜 記

保健師職能委員会

地域共生社会の実現～ 高齢者も子どもも障がい者もみんな一緒に、
その人らしい生活を送ることができる地域を目指して

2019年の学習会は、7月24日ホテルエミシア札幌にて、「地域共生ホーム「てまりの華」を運営している株式会社ライズリング代表取締役の渡邊譲氏をお招きして開催しました。

「てまりの華」は、平成28年に江別市内に開設され、木造築52年の戸建て住宅に認知症の高齢者や障がい者、発達障害児の子どもたち、それを支える支援スタッフの笑顔があふれ、画一の支援では対象にならない人々を排除するのではなく、誰もが集える『居場所づくり』を実現しました。



富山型（共生型）デイサービス”を北海道で開設したいと、渡邊氏は何度も道庁や振興局に様々な資料や情報をもとに通い、ようやく認可を得るに至った経緯や地域住民との交流についてのお話しなどをお聞きし、あっという間に時間が過ぎました。それぞれが自分の居場所で役割を持ち、周りから必要とされ、自信や生きがいにつながり、また、様々な世代間のふれあいが、子どもの優しさや協調性を育み、障がいがあっても、認知症になっても住み慣れた場所で暮らし続けることができる地域があること、受け入れてもらえる場があることが安心して暮らせるまちづくりにつながることを「てまりの華」の活動を通して報告していただきました。参加者は行政、介護施設、訪問看護などの保健師と看護師や介護福祉士の20名で、「専門・分化が進む世の中で、多様性を大事にするメリットがわかった」「保健師のジェネラリストを改めて痛感した」「保健師の役割機能を振り返る機会となった」などの感想がありました。今後も、学習会等の開催を通じ、保健師の資質の向上・会員交流を図って参ります。

保健師職能委員長 高橋 明子

2019年度 看護管理者懇談会

2019年8月17日 ANA クラウンプラザホテル札幌にて開催されました。午前、北海道看護協会の上田順子会長による「看護の動向」についての講義がありました。保健・医療・福祉及び看護の動向として、2025年を見据えた、少子高齢化社会における、地域包括システムの構築の重要性が印象に残りました。

午後からは「在宅支援・多職種との連携」をテーマにした、4名のシンポジストの先生方による、シンポジウムがありました。下倉先生が私見で「在宅支援・多職種との連携の中心は、看護師であり、看護師がすべてのかけ橋となるため、今まで以上に在宅支援、多職種連携等の関わる実践・教育・研究を推進していただきたい」と述べていました。看護師は、その思いを受け止め、実践していかなければならないと思いました。懇談会では、質疑応答にあった、ACPやグリーンケアについて、多くの学びもありました。懇談会に参加された管理者の皆様、講師、第3支部役員の皆様、お疲れ様でした。

広報委員 小寺 記



編集後記

札幌第3支部で初めて看護の日のイベントが実施され、お手伝いに参加しました。買い物客の皆さんが足を止め参加される姿を見ていると、本当にたくさんの方々が日々健康を意識されて生活していることを実感しました。今年をはじめとして、来年も、再来年も続いていけばよいなと思いました。今年度は各委員会主催の研修のほか、札幌第3支部主催の研修や交流会が多いです皆さま、とても良い研修が多いのでぜひ参加していただけたらと思います。